

平成28年度第2回運営委員会 議事概要

- ・開催日時 平成28年9月2日（金） 10時～12時
- ・出席者 運営委員：13名出席（欠席委員：2名）
 ウィズセンター：所長、次長、職員
 男女共同参画青少年課：課長、総括副参事

議 事	概 要
<p>1 開会 2 議題 (1)平成28年事業の実施状況について (2)ウィズセンターの利用状況について</p> <p>[質疑等] 委員</p> <p>ウィズセンター</p> <p>委員</p> <p>ウィズセンター</p> <p>委員</p>	<p>ウィズセンター説明</p> <p>・今年度の事業について、予想と違う点、今後気をつける点、あるいは次年度以降こういう取り組みをした方がいい点などあれば教えてほしい。</p> <p>・皆様からいただいたご意見を基に、なるべく工夫して事業を実施しようと努めている。情報誌「With」について、昨年度までは学生に表紙のデザインを募集していたが、今年度は自分たちでメッセージ性を出すように工夫した。映画のつどいでは、上映後に映画の内容にちなんで、きらめきプラザの他団体や登録団体と連携し講話をいただくなどの企画をしている。総合相談の件数は、昨年度に比べ若干少ないが、8月下旬からは男性も含め初めての方からの相談が増えている印象だ。</p> <p>その他、ウィズカレッジでは男性も参加しやすいような講座を企画している。ゼミナール事業では、今年度は平成16年度からのゼミ修了生にも案内をした。来年度からは過去5年位の修了生に案内をし、継続的な交流を深めていけたらと思う。</p> <p>男女共同参画推進月間事業については、登録団体の自主交流会の企画運営、街頭での啓発、岡山マラソンの応援などでの推進月間のPRを計画している。</p> <p>・各事業について、昨年と比べてどこがどのくらい進んだのか、また、どこに理解を得られてどんな成果があったのかがわかりにくいので、指標を作っていたきたい。</p> <p>・各事業でアンケートを実施し、男女共同参画に対する理解が深まったかどうかの項目でも85～95%の高い数値で理解が深まったとの感想があった。指標については、今後検討してまいりたい。</p> <p>・様々な事業や男女共同参画施策についてどう広めていくかが課題だと思う。広報誌などを個々の家庭にどのように広げていっているのか、そこが活発になると利用者も増えていくのではないかと。</p>

議 事	概 要
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・Facebookにも随時、事業の案内を入れるように努力している。ゆうあいセンターに入っている若い方の団体とも交流し、少しずつ広げるなど、地道に啓発していきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・登録団体のうち、ウィズセンターに積極的に関わっているのはどのくらいか。登録団体をもっと活用したらそこから広がるのではないか。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に活動し、関わって下さっているのは1割くらいかと思う。ウィズセンターの会議室をもっと活用していただくよう声掛けするなどして、広がりや強化ができればと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事業に参加しているのはいつも同じ団体なので、登録団体を掘り起こして、月間事業を盛り上げる団体を育てることを考えていただきたい。 ・男女共同参画ゼミナール事業についても、違った新しい形で人材を育ててほしい。 ・ウィズセンターの事業への申込み方法について、ファクシミリがない家庭も多いので、Eメールなど手段を考慮していただきたい。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい団体の掘り起こしには力をいれていきたい。 ・ゼミナールは、今年度から少し内容を変更したが、内容のご提案があればいただきたい。 ・申込み方法はFAXだけでなく、電話、郵便、メールでも受け付けている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシにQRコードを貼るとか、電話やメールでの申込が可能なことを、目立つように記載しておくとうい。 ・県の広報紙について、「約6割の人が家事や育児は妻の役割と考えています。」とあるが、そういうものと捉えられるかもしれないので、「皆さん、お互いに納得していますか」などの提案の言葉や「こういうことに意識していきましょう」といったアプローチがあるとよかったのではないかと。半々にすることが男女共同参画とは捉えておらず、お互い協力しあって、できる人ができることをする、それぞれの働き方や家事の仕方があると思っている。 ・また、DVについて、「あらゆる暴力」とは、身体的な暴力だけではなく、暴言や無視したりすることも暴力だということを啓発する文章を入れていただきたい。 ・相談事業が一番大切な事業だと思っているが、どこに相談したらいいのかわからない人が多い。必要な人に届けるためにどのような工夫をしているのか。
男女共同参画 青少年課	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重なご意見をいただいた。 ・広報については、県の広報紙は岡山市と倉敷市は新聞折込が見ない人が多い、また、新聞もテレビも見ないという層も増えており、どのように情報を届けていくかが課題となっている。 ・なかなか全てに行き届いていないが、皆様の力を借りながら周知してまいりたい。

議 事	概 要
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・DV相談の内訳は、今年度7月までの集計だが、初回の方が32.8%、継続再来の方が67.2%となっており、継続の方にはグループカウンセリングの案内など寄り添った相談を心がけている。
男女共同参画 青少年課	<ul style="list-style-type: none"> ・DVの相談窓口の周知については、相談機関や電話番号が記載されたカードやステッカーを、協力いただけるコンビニエンスストアやスーパーマーケット、医療機関の女性用トイレに設置しており、なかなか誰にも言えない方がカードを見て電話いただけることがあるのではと思っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・例えばマタニティハラスメントなどいろいろな面でハラスメントという言葉があるが、ジェンダーからの解放が一番大事であり、全然進んでいないことが今の課題ではないかと感じている。また、平等ということが全て同じにしなければならないと考えることは、少しはき違えているのではないかと感じている。 ・ゼミナールで奥山先生の講座があったが、男女共同参画の推進の方法についての話が大変参考になったので、このようなものをもう少し入れたらいいと思う。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・奥山先生の講座は、男女共同参画の基本的な部分が必要だというご意見を参考に入れた講座だが、「適材適所」ということで非常にわかりやすい内容であり、その点についての推進にも努めてまいりたい。
(3)平成29年度事業、 運営についての意見・提案について	
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の日本女性会議でDVの加害者の教育について議論されたが、DV被害者が集まるグループワークだけでなく、加害者がお互い学び合う場があってもいいのではと思う。 ・「メディアリテラシー」を私たちの時代には学んできたが、メディアについての考え方はさまざまで、いじめの問題を考えていくうえでも、自分がどう受け止めるか、また自分がどう発信していくかなどの、メディアに対する教育が子どもも大人も必要かと思う。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・DVの加害者教育については、国でもまだ調査・研究の段階だが、支援側が加害者教育について学び合う機会も設けていきたい。 ・メディアリテラシーについては、第6回、7回のゼミナールの講師もその方面に造詣が深いので伺えるかと思う。いじめ等も含めて子どもを守ろうということで、来年、講座を実施したいと思っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの事業があまり知られていないことが問題だと思うので、例えば、センターを知っている県民の割合など、現状を踏まえた目標を決めてはどうか。目標を決めて、具体的な活動を試していくとよい。

ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・「第4次おかやまウィズプラン」の数値目標が達成できるようなテーマを決めて啓発してまいりたい。
---------	---

議 事	概 要
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・広報について、ゆうあいセンターは主にFacebookによる広報を行っているが、Facebookを使っていない層にどのように情報を届けるかが課題である。双方のユーザーへ向けてウィズセンターと広報共有できればと思う。 ・男女共同参画ゼミナールの修了生へのフォローアップについて、地域で活動、活躍していただくためにフォローはとても重要だ。ニーズを拾い定期的にフォローができる場づくりをしてはいかがか。 ・相談事業について、相談員への専門家の指導やアドバイスを実施しているのはよいことだ。相談対応やスキル向上の面で情報共有、情報交換ができればと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば「女性の人権相談機関連絡会」の各相談機関が同時に、ある期間を「相談週間」として打ち出すと新聞等にも取り上げられるかもしれない。 ・相談員はいろいろな相談を受けることで疲弊するので、フォローアップはぜひ引き続き実施してほしい。また、相談員の研修も何か連携できればと思っている。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘のように皆さんに広報協力をいただきながら情報発信していきたい。 ・相談員の資質向上、バーンアウト防止のために、外部のスーパーバイザーの他、弁護士会、こころの相談の医師にもアドバイスをいただき、相談員の心の健康面にも配慮している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の中企業の経営者に「男女共同参画」を理解していただくために、経営者団体とウィズセンターとの連携について、何か具体化して実行したい。 ・男女共同参画の意識が100%浸透するのは不可能に近いが、ずっと継続し、ウィズセンターにかかわっている団体や人がそれぞれ発信することで広がっていくと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィズセンターがきらめくにはセンターだけでは難しく、団体等との連携事業が活発にならないと活動や利用者が増えないだろう。運営委員の所属団体同士が対面し対話する事業が作れたらいいのではと思う。また、きらめきプラザ内の団体とも、県民をいざなって交流することも大きなきっかけになると思う。 ・県内の大学と、学生だけではなく、県民が学べるような接点を設けていただきたい。 ・来年度事業を組み立てる骨格は、県政、国政と一体となる事業でなければならない。例えば、子どもの貧困、終活について学べる講座はどうか。また、参政権の問題では、若い人に政治や行政への関心を高めるために県議会などの議場を見学し、政治がどのように発信されているのかを知る道案内をウィズセンターでできないかと思う。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィズセンターに足を運んで知っていただき、ウィズセンターがきらめいてときめく場所になるよう頑張りたい。

3 閉会

以 上